

令和7年8月4日に「第5回 MOVE NEXT UTSUNOMIYA 事業推進有識者会議」を開催し、下記のような意見を得た。

報告事項（MNU事業の進捗状況について）

- 多方面のMMを推進するほか、様々なメディア、チャネルを駆使して広報を実施していることは大変良い取組である。
- MM（モビリティ・マネジメント）実施による実際の行動変化に関する指標についても提示いただけるとよい。
- totra配付事業で配付されたtotraの実際の利用率等を提示することで、この事業がいかに効果的だったかがさらに伝わるのではないか。
- 公共交通プロモーション業務内効果検証アンケートの回答者の年齢層が高めなので、若年層の回答を引き出す工夫を検討いただけるとよい。
⇒（事務局）いただいたご意見を参考に、資料の修正や今後の効果検証の手法等について検討を行っていく。

協議事項（宇都宮版 MMアクションプラン・モビリティハブ事業について）

宇都宮版MM
アクションプラン

- 「乗り継ぎ」文化の意識醸成というのは、よい着眼点である。乗り継ぎによって体を動かせる・ついでに用事を済ませられる・思いがけない発見や出会いが生まれるといったメリットを、実際のエピソードを交えて発信できるとよいのではないか。
- 必ずしも前回までのMNUロードマップの形にこだわる必要はないので、MNU1.0と2.0の違いについて今一度整理していただきたい。
⇒（事務局）今後の取組の中で、検討していく。
- どの地域で公共交通利用率が上がっているかといった情報を可視化し、効果が見えるようにすることが非常に重要である。

モビリティ
ハブ事業

- ピクトグラムのデザインは、目立ちやすいものがよいのではないか。
- トータルデザインをお願いしたい。デザインの統一により公共交通が便利だという印象が伝われば、市民の意識も変わるのではないか。
⇒（事務局）ご助言を踏まえ、デザインのブラッシュアップを図りたい。
- 民間企業との共創を図るうえでは、「成果(アウトカム)」に地域にお金が落ちることを加えることも重要だと考えられる。